（JA京都にのくに版）

中丹 米づくり情報

令和2年7月

防除編

中丹米振興協議会

2020年テーマ 増収、高品質化に向けた健全な管理を！

カメムシ防除の徹底を ― カメムシ被害は大きな損失です！！

近年カメムシ類が原因の着色粒（斑点米）による等級落ちが増加しています。玄米1000粒のうち2粒以上の着色粒があると２等以下の格付けになります。

カメムシ類はイネ科雑草の穂をエサにします。出穂3週間前と出穂直前の2回、畦畔等ほ場周辺の草刈りを行い、カメムシ類がほ場に近づかないようにするとともに、しっかりと薬剤防除をしましょう。

また、近年、紋枯病の発生が拡大傾向にあり、減収や品質低下が懸念されるようになってきました。紋枯病は病原菌が稲わらに残り、年を越えてその稲わらから伝染します。紋枯病の発生が昨年多かったほ場では箱施用剤だけでなく、田植え以降の防除も行いましょう。

カメムシによる被害粒

アカスジカスミカメムシ

トゲシラホシカメムシ

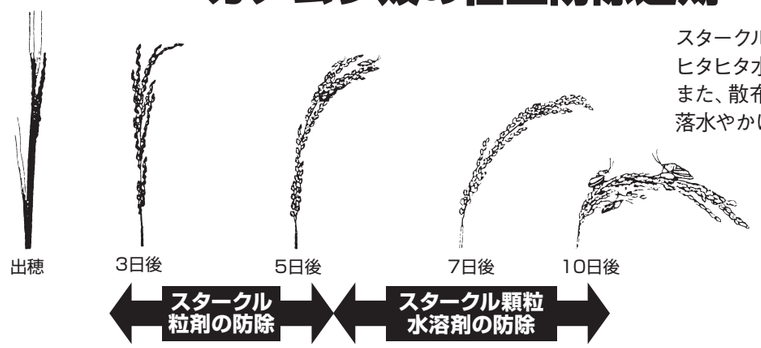
ホソハリカメムシ

クモヘリカメムシ

紋枯病

（京都府病害虫防除所）

カメムシ類の仕上防除適期



スタークル粒剤は
ヒタヒタ水～湛水状態（3cm）。
また、散布後1週間は
落水やかけ流しはしない。

草刈りの徹底

ほ場周辺にある雑草の穂は、カメムシ類のエサ場となります。草刈りの徹底は、カメムシ類の密度を低くし、斑点米の被害を軽減させる効果があります。

1回目：出穂3週間前
畦畔上のカメムシ類の密度を低下させます。

2回目：出穂直前
カメムシ類のエサとなる雑草の出穂を抑えます。

安全・安心な農作物づくりをしましょう

本田防除の薬剤は、飛散の少ない粒剤・ジャンボ剤・豆つぶ剤をお勧めします。穂いもち病防除対策として、箱施用剤の効果が薄れる時期（施用後50～60日目位）に追加防除が必要となります。

◎散布時期目安

粒剤・ジャンボ剤施用上のポイント：湛水状態で施用し、3～4日湛水状態を保ち、散布後7日間は落水・掛け流しはしない。
湛水の深さは剤によって異なりますので、使用上の注意を十分確認して散布下さい。

農薬の登録内容一覧表（R2年6月12日付け登録情報より）

薬　剤	適用病害虫	希釈倍数・使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	製剤毒性
コラトップ豆つぶ	いもち病	250～375g／10a	葉いもちに対しては初発10日前～初発時、穂いもちに対しては出穂30日前～5日前まで	2回以内	散布	普
	もみ枯細菌病	375g／10a	出穂30日前～5日前まで			
コラトップジャンボP	いもち病	小包装（パック）10～13個（500～650g）／10a	葉いもちに対しては初発20日前～初発時、穂いもちに対しては出穂30日前～5日前まで	2回以内	水田に小包装（パック）のまま投げ入れる。	普
スタークル粒剤	ウンカ類、ツマグロヨコバイ、ニカメイチュウ、イネドロオイムシ、カメムシ類イネミズゾウムシ	3kg／10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	普
スタークル顆粒水溶剤	カメムシ類	2000倍・60～150L／10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	普
	ウンカ類、ツマグロヨコバイ	3000倍・60～150L／10a				
ダントツ粒剤（特栽米には使用不可）	ウンカ類、ツマグロヨコバイ、ニカメイチュウ	3kg／10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	普
	カメムシ類	3～4kg／10a				
モンガリット粒剤	紋枯病	3～4kg／10a	収穫45日前まで	2回以内	湛水散布	普

農薬を使用する際は、容器等の使用基準ラベルを確認し正しく使用しましょう。

くわしくはJA・農業改良普及センターへお問い合わせ下さい。